

研究成果シンポジウムを開催しました ～ニホンナシ樹体ジョイント仕立て～

果樹花き研究部

当センターで考案した「ナシ樹体ジョイント仕立て」を研究シーズとした、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業（農林水産省）「樹体ジョイントによるナシ園早期成園、省力化と樹勢回復技術開発」が4年目の最終年度を迎えました。そこで、その共同研究の成果を発表するシンポジウムと現地見学会を、梅雨明けの猛暑の中、7月15、16日に平塚市中央公民館と藤沢市菖蒲沢の高橋園、当センター研究圃場において開催しました。

参加者は、県内生産者のほか、北は秋田、南は熊本と全国から約700名が集まり、全国ナシ研究大会にも匹敵する規模になりました。特に「幸水」の出荷開始が暖地より遅く、販売環境が厳しくなる遅場産地から多くの参加者があり、生産コスト削減技術としての「ジョイント仕立て」に大変強い期待を抱かれています。

また、全国果樹産地の危機的な状況に対して、栽培管理を大幅に省力・簡易化し、生産コストも大幅に削減する技術としてこのジョイント栽培への期待が高まり、同事業で新たに5年の計画で他の果樹への適応を試みる研究が始まっています。



満員のシンポジウム会場



普及指導部による現地視察園での解説

山菜の王様「シオデ」を中山間地の特産に

北相地区事務所

シオデは日本全土の山地に自生していて、ユリ科に分類される雌雄異株の多年生植物です。地下茎から萌芽する若茎や腋芽を収穫し食しますが、山菜の中でも食味が良好なことから「山菜の王様」とも呼ばれています。

地下茎からの萌芽や若茎の形態などアスパラガスと類似しますが、著しく違う点は収穫量と播種から収穫開始までの年月です。シオデは、鉛筆大の太さの若茎（茎長25cm程度）を収穫しますが、1株で平均4～5本程度と極端に少なく、また種子は発芽までに1年以上、さらに収穫できる太さの若茎が萌芽するまでに4～5年の長期間を要します。

増殖方法は組織培養による大量増殖方法も開発されていますが、生産者でも簡単に増殖でき、収穫できるまでの期間を短縮できる方法として、株分けによる栽培について検討しました。

1株の地下茎には1個の主芽と5～7個の副芽があり、今回主芽を含むものと副芽だけのものに分割して植えたところ、主芽を含むものは100%萌芽し、副芽だけのものの萌芽率は約50%でした。1つの地下茎から4株は増殖できることとなります。

収穫できるまでの期間については、今後、地下茎の肥大との関係にも注目しながら調査する予定です。



萌芽した若茎



収穫した若茎(左)と脇芽(右)